



ゆめ半島  
千葉国体  
2010

## 国体の記憶 13

# 共に流した汗と涙

このコーナーに登場してくれる人を募集します。  
くわしくは広報課(☎20-15503)へ。



アルバムを広げ、懐かしそうに当時を振り返る二人

矢島 紀昭さん(馬橋・左)  
沢田 喜信さん(加良部・右)  
成田高校軟式庭球(ソフトテニス)部OB。  
ペアを組んでいた3年時、第13回富山国  
体(昭和33年)に出場、ベスト8進出。そ  
の9年後、再びペアを組む機会に恵まれ、  
埼玉国体(昭和42年)にも出場した。矢  
島さんは現在、市ソフトテニス連盟会長  
を務める

二人が初めてペアを組んだのは高校2年の秋。県新人戦に出場すると、いきなり優勝を勝ち取った。ポジションは、ネット際の前衛が矢島さんで、後衛が沢田さん。それぞれ相方を「相手の心理を読む駆け引き上手。ポジションニングは絶妙でしたよ」(沢田さん)、「とにかく粘りのタイプ。よく足が動きましたね」(矢島さん)と評価する。

小学校から同級生。中学・高校では、軟式庭球部で汗を流すライバルだった。ペアを組む直前の東日本大会では準々決勝で互いの組が激突、接戦を演じ、相手の力を十分に知ることになった。

実力を認め合う二人が掲げた目標は「インターハイ・国体出場」。人一倍練習に打ち込み、日が暮れてコートが使えなくなっても素振りや走り込みで夜遅くまで体力づくり。二人の頑張り、期待を寄せた卒業生も駆け付け、熱心に指導してくれた。練習を終え、空を見上げるとそこには輝く星が。「明日も天気だ。テニスができるぞ」。帰り道には、1つ15円のジャムパンを分け合いながらテニスへの思いを語り合った。



富山国体・高岡会場で(左から2人目が矢島さん、4人目が沢田さん)

社会人や大学生が出場する県大会も制するなど、技術面・精神面ともに磨きがかかった3年の夏、念願だったインターハイに出場。「行き先が同じ伊勢ならテニスで行けばいい」と修学旅行を見合わせてまで優先した目標だけに喜びは一際大きかったが、本戦は体調を崩し2回戦で敗退。悔しさの一方、「次は国体だ」と固く誓い合った。

そして迎えた国体予選。県大会を優勝で飾り、準優勝ペアと共に「千葉県選抜」として関東大会に臨んだ。国体出場をかけた1都7県の代表が争うこの大会で、千葉県チームは全勝。矢島・沢田組は最高殊勲賞に輝き、国体開催地・富山へと乗り込んだ。

「共に流した汗と涙の分だけ、相手の性格、長所や短所を熟知できた。それが個々の力を伸ばすことにつながったんだと思います」

その後のテニス人生の原点ともいえる出会いから50年。互いへの感謝の思いは今でも変わらない。

### 編集後記

中央公民館が昭和54年にオープンしたときに、2階に大きな図書室ができました。公民館に勤務していた私は、本の貸し出しや移動図書館の運営に携わることになりました。もちろんコンピュータなどありませんから購入した本の整理はすべて手作業！大変でした。中央公民館の駅側の駐車場は、かつて赤坂公民館があった場所。その中に市民課分室や視聴覚サービスセンターが入っていて、図書館のオープンを機にそれぞれ移動しました。それから25年。当時を知る人も役所の中では少なくなってきました…。



成田市役所本庁舎  
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)  
はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年10月15日号 No.1157

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>